

メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン **ML** を押し、好みの構図に戻してから撮影します。

- * メモリーロックボタン **ML** を押しと10秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。
- * メモリーロック中に、シャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン **ML** から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。
- * ペンタックスファンクションで、メモリーロックボタン **ML** を押したときに、オートフォーカスが作動しフォーカスロックしてから露出を固定するように設定できます。ただし、フォーカスモードが **SINGLE** 時のみ可能。(107ページ参照)
- * メモリーロックボタン **ML** を押しと電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)
- * メモリーロック中は、ファインダー内に ***** が表示されます。
- * メモリーロック中にメモリーロックボタン **ML** をもう一度押すと解除できます。

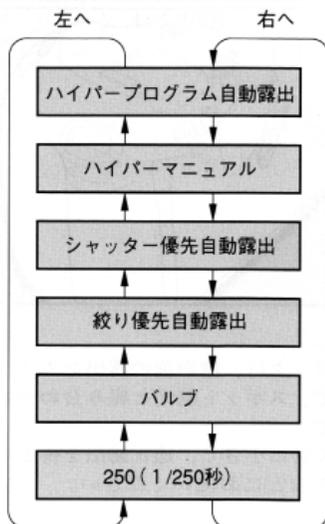
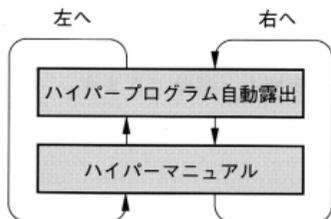
(4) 各露出モードを選びます

電源スイッチを **ON** (フルスペックポジション) にします。

絞りがA位置の場合

下図のように矢印の順で2つの露出モードを交互に変えられます。それぞれの露出モードについては、各ページの説明をご覧ください。

- * ペンタックスファンクションのNO. 2の設定を選択肢の1番(すべての露出モードが使用できます)にすると(104ページ参照)、右図のように6つの露出モードを選ぶことができます。工場出荷時は、ペンタックスファンクションの設定は0になっていきますので、使用できる露出モードは、ハイパープログラム自動露出とハイパーマニュアルの2つだけとなります。



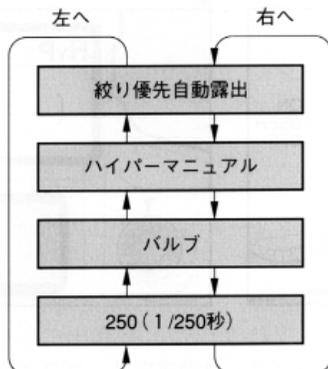
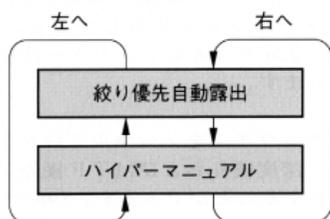
電源スイッチを **ON** (フルスベックポジション) にします。

絞りがA位置以外の場合

絞りがA位置以外では、下図のように2つの露出モードを交互に変えられます。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。

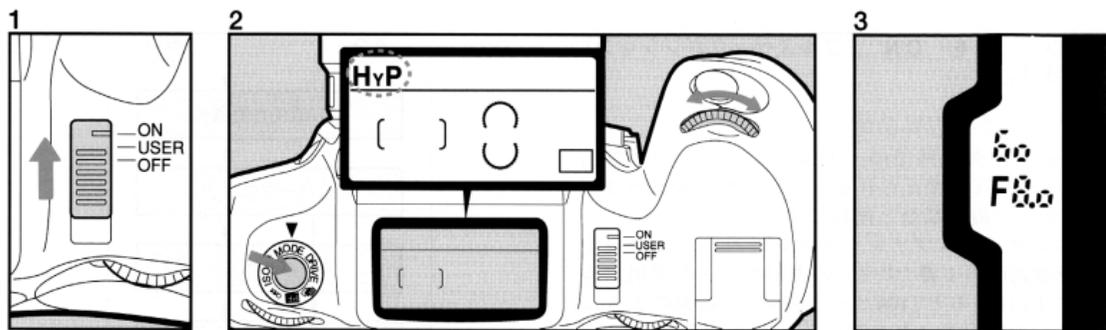
* ペンタックスファクションのNO. 2の設定を選択肢の1番(すべての露出モードが使用できます)にすると(104ページ参照)、右図のように4つの露出モードを選ぶことができます。

工場出荷時は、ペンタックスファクションの設定は0になっていますので、使用できる露出モードは、絞り優先自動露出とハイパーマニュアルの2つだけとなります。



以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。



1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(22ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HvP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

* プログラムラインをノーマルプログラムから高速優先、深度優先およびMTF優先プログラムに切り替えることができます。(98ページ参照)

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。(52ページ参照)

- * シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内では設定できません。(ペンタックスファンクション設定でシャッター速度のシフトを禁止(105ページ)した場合は除く。)
- * 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの \square とファインダー内のシャッター速度表示の下の横棒が点滅します。(ペンタックスファンクションNO.5で変更可)
- * **IF** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)

※露出警告

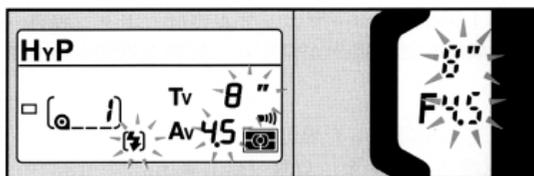
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを換えたい場合

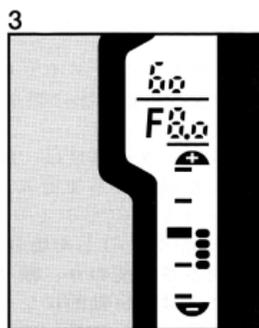
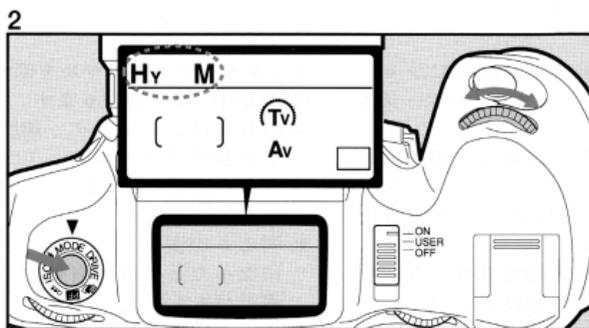
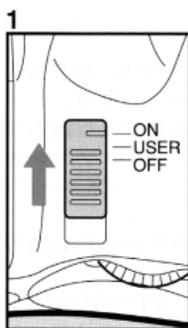
Avダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。(54ページ参照)

- * 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内では設定できません。(ペンタックスファンクション設定で絞り値のシフトを禁止(105ページ)した場合は除く。)
- * 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの \square とファインダー内の絞り値表示の下の横棒が点滅します。(ペンタックスファンクションNO.5で変更可)
- * **IF** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)

※



48



応用的な使い方

2) ハイパーマニュアル露出の使い方

シャッターボタンを半押しすると、露出計が働きます。露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

Z-1Pのハイパーマニュアルには、ボタン操作一つで瞬時に適正露出が得られる便利な機能があります。

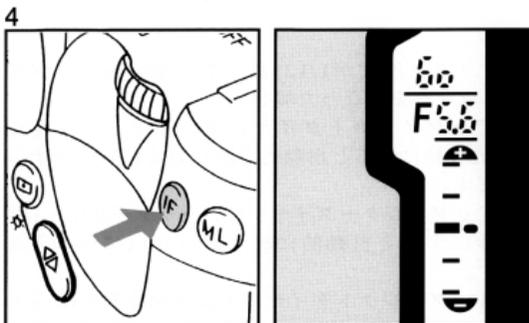
絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyM** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値とバークラフが表示され、表示パネルにもバークラフが表示されます。

- * 表示パネルの \square と \square およびファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下の横棒は、TvダイレクトダイヤルとAvダイレクトダイヤルによって、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表しています。

応用的な使い方



4. **IF** ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

* 表示パネルとファインダー内のバググラフの中心に黒丸が移動して適正露出を知らせます。その後、**A** vダイレクトダイヤルで絞りを、**T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

- * **IF** ボタンを押すと、現在のプログラムライン(98ページ)に従って絞り、シャッター速度が変化します。(ペンタックスファンクションNO.6で変更可)
このとき電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)
- * **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、シャッター速度と絞り値が変化しますので、プログラム自動露出と同じ使い方ができます。
- * 表示パネルのバググラフの黒丸が 側(ファインダー内は) に並んでいるときは露出がオーバー、 側(ファインダー内は) に並んでいるときは露出がアンダーです。バググラフの黒丸1個は0.3EVに相当します。ただし、±2EVを越えてオーバー、アンダーになったときは表示パネルの (ファインダー内は) あるいは (ファインダー内は) が点滅します。
- * 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタン **ML** を押して、露出値を記憶させることができます。(43ページメモリーロック参照)この状態で、**T** vダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆に**A** vダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

使用方法

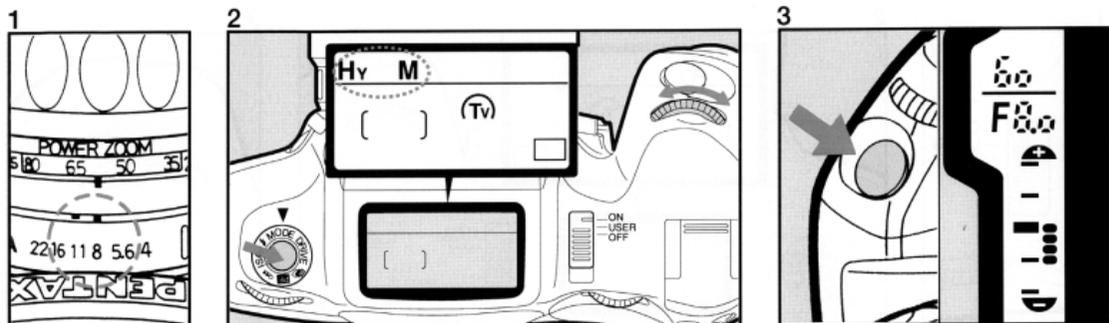
1. 絞りをA位置にする。
2. 露出モードをハイパーマニュアルにする。
3. メモリーロックボタン **ML** を押して露出値を記憶させる。
4. **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を、**A** vダイレクトダイヤルで絞り値を変化させます。

(例)

シャッター速度が1/125秒、絞り値がF8でメモリーロックを行なった場合。

- ・ **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/250秒にすると自動的に絞り値はF5.6に変わります。
- ・ **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/60秒にすると自動的に絞り値はF11に変わります。
- ・ **A** vダイレクトダイヤルで絞り値をF5.6にすると自動的にシャッター速度は1/250秒に変わります。
- ・ **A** vダイレクトダイヤルで絞り値をF11にすると自動的にシャッター速度は1/60秒に変わります。

このように、メモリーロック後にシャッター速度や絞り値を変化させても、常に同じ露出値を保ちます。

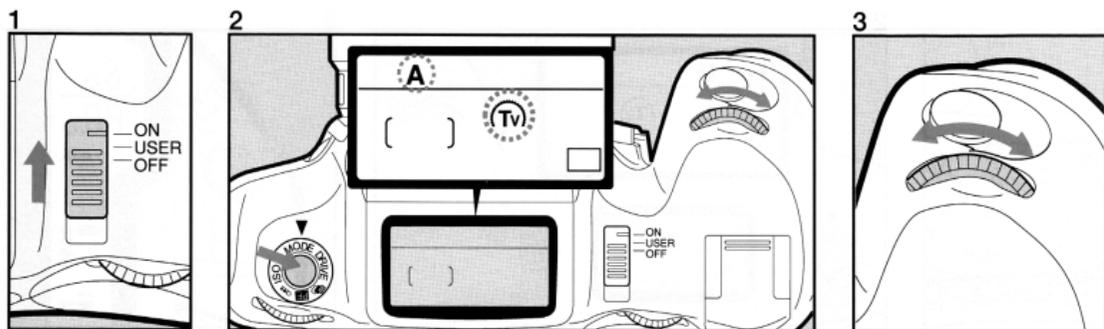


絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
 2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HvM** の表示を出します。
 3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに設定絞りの目安およびシャッター速度とバググラフが表示されます。絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
- * 露出の合わせ方と露出警告は、絞りがA位置の場合と同じですが、**IF** ボタンを押すとシャッター速度だけが切り替わります。(49ページ参照)

- * FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- * **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度が明るさによって変化しますので、絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方



応用的な使い方

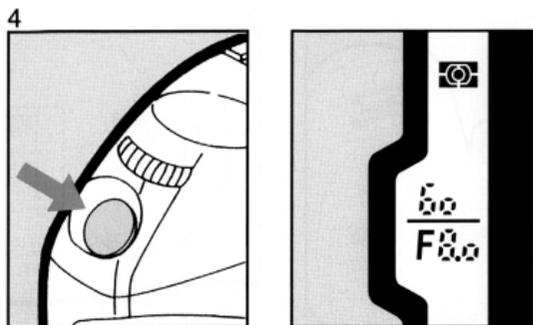
3) シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。

シャッター優先自動露出モードの選択は、ペンタックスファンクションのNO.2の設定を選択肢の1番(すべての露出モードが使用できます)にしてください。(104ページ参照)

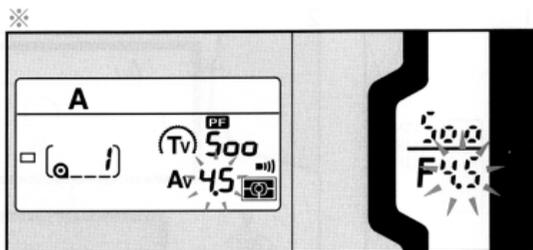
絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Tv** の表示を出します。
3. Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。



4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

- * 表示パネルの  およびファインダー内のシャッター速度表示の下の横棒は、Tvダイレクトダイヤルによってシャッター速度が変更可能であることを表わしています。
- * ペンタックスファンクション設定で、シャッター速度の設定を1EVステップから0.5EVステップに変えられます。(104ページ参照)

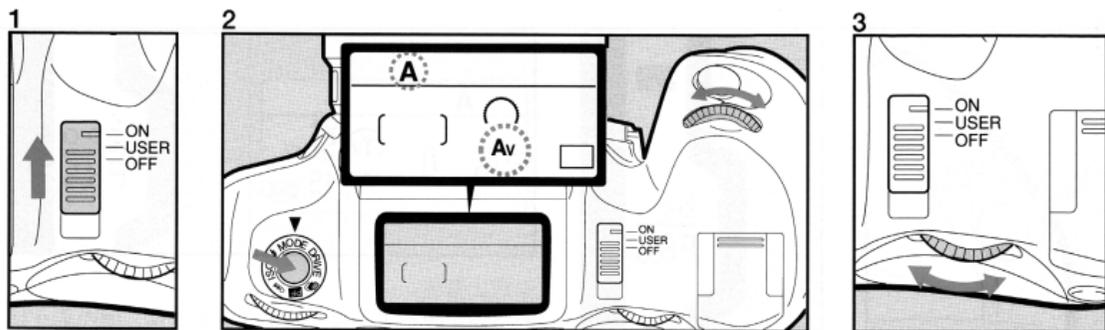


※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

応用的な使い方



4) 絞り優先自動露出の使い方

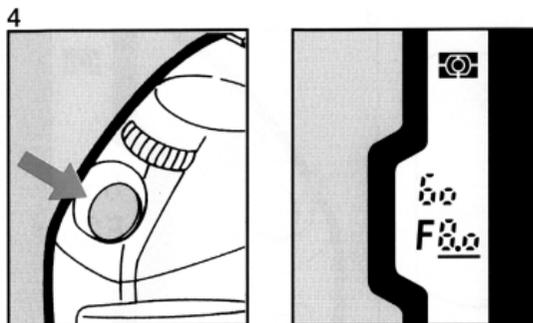
希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。

絞りA位置での絞り優先自動露出モードの選択は、ペンタックスファンクションのNO.2の設定を選択肢1番(すべての露出モードが使用できます)にしてください。(104ページ参照)

絞りA位置の場合

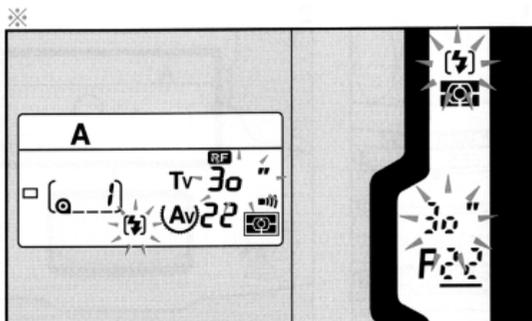
1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Av** の表示を出します。
3. Avダイレクトダイヤルで絞りを変えます。

応用的な使い方



4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

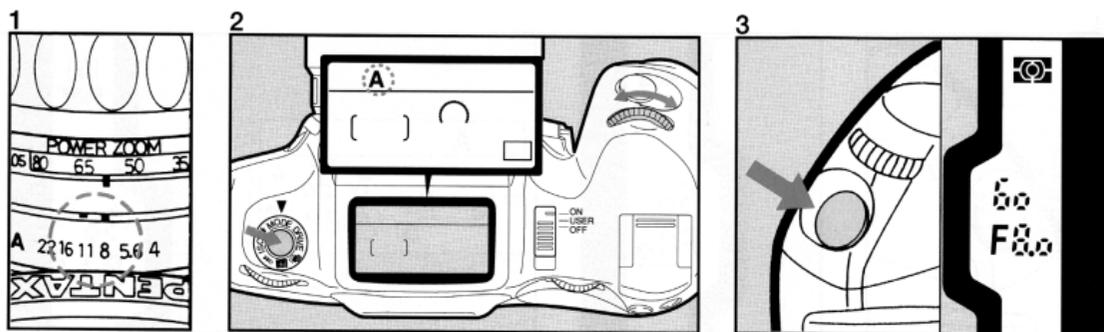
* 表示パネルの  およびファインダー内の絞り表示の下に横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。



※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎるときは絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。



絞りをA位置以外にした場合

絞りがA位置以外でも絞り優先自動露出が使えます。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

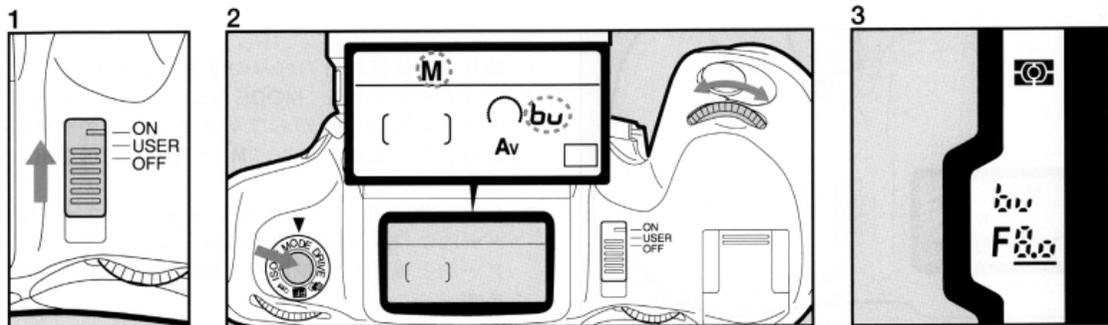
* F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません

* 電源スイッチがユーザーポジション **USER** で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。

* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したままシャッターを切ると、正しい露出が得られません。

※露出警告

露出警告は、絞りがA位置のときと同じですから55ページを参照してください。



5) バルブの使い方

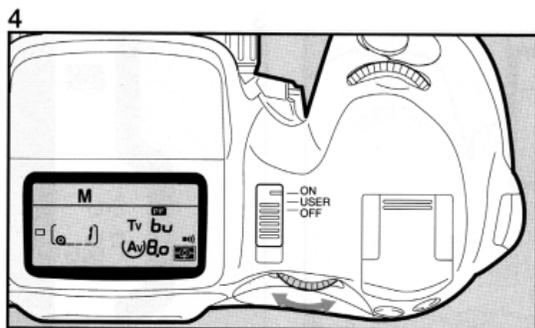
花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。バルブモードの選択は、ペンタックスファンクションのNO. 2の設定を選択肢1番(すべての露出モードが使用できます)にしてください。(104ページ参照)

- * 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。
- * シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間の目安が表示されます。

絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値が表示されます。

- * 表示パネルの **U** およびファインダー内の絞り表示の下の横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

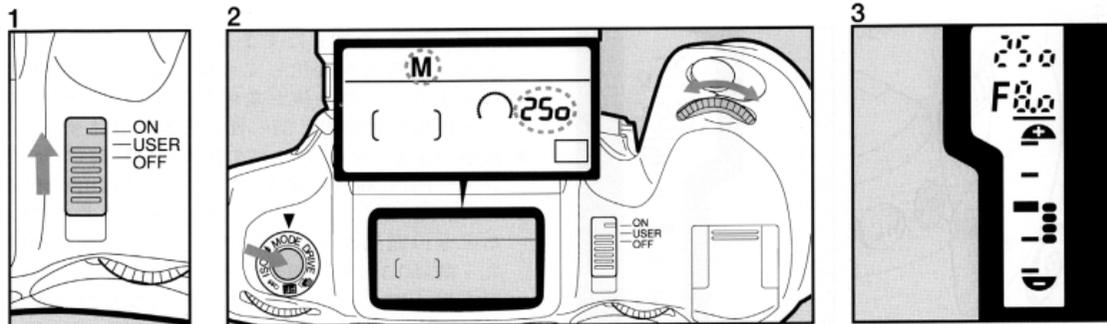


4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** が表示されます。また、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安が表示されます。

- * F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
- * バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットキャップFDを外してからリリースソケットに差し込んでご利用ください。



6) 250 (1/250秒)の使い方

ストロボ使用時などにシャッター速度を1/250秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときにご利用ください。

250 (1/250秒)モードの選択は、ペンタックスファンクションのNO. 2の設定を選択肢1番(すべての露出モードが使用できます)にしてください。(104ページ参照)

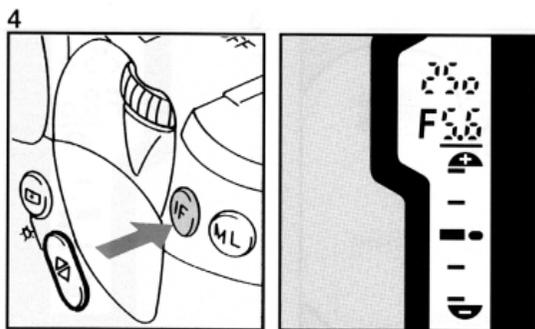
絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**250**の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**250**、絞り値とバググラフが表示され、表示パネルにもバググラフが表示されます。

* 表示パネルの およびファインダー内の絞り表示の下の横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

応用的な使い方



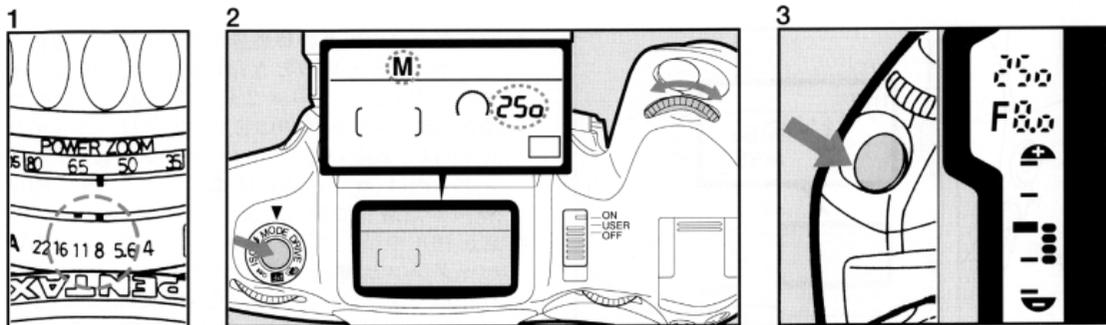
4. **IF** ボタンを押すと、絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

* 表示パネルとファインダー内のバググラフの中心に黒丸が移動して適正露出を知らせます。その後、Avダイレクトダイヤルで絞りを変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

* **IF** ボタンを押すと電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO. 1で変更可)

- * **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、絞り値が変化しますので、シャッター優先自動露出と同じ使い方ができます。
- * 表示パネルのバググラフの黒丸が 側(ファインダー内は) に並んでいるときは露出がオーバー、 側(ファインダー内は) に並んでいるときは露出がアンダーです。バググラフの黒丸1個は0.3EVに相当します。ただし、±2EVを越えてオーバー、アンダーになったときは表示パネルの (ファインダー内は) あるいは (ファインダー内は) が点滅します。
- * 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

応用的な使い方



絞りをA位置以外にした場合

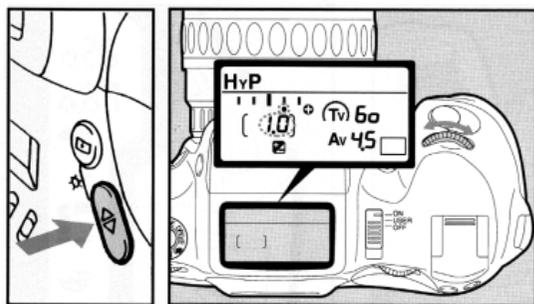
1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **[MODE]** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[M]** と **[250]** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内および表示パネルに **[250]**、絞り値の目安とバググラフが表示されます。

* FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません。

- * 絞りリングで絞りを変えて、表示パネルとファインダー内のバググラフの中心に黒丸が移動すれば適正露出です。その後、絞りリングで絞りを変えれば、好みの露出値で撮影することができます。
- * バググラフの表示と露出警告の内容は、絞りがA位置の場合と同じです。(60ページ参照)
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方

(5) 露出補正について



意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にしたいときに露出を補正するために使います。

セット方法

露出補正ボタン  を押したままTvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選びます。

- * 補正は-4 ~ +4 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。ペンタックスファンクション設定で、露出補正のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに変更できます。(104ページ参照)

- * バググラフの黒丸の移動量1つが0.3 EV(補正ステップが0.5 EVのときは0.5 EV)に相当します。ただし、-2 ~ +2 EVを越えて設定した場合(補正ステップが0.5 EVのときは-3 ~ +3 EV)は、表示パネルのバググラフの  (ファインダー内は ) あるいは  (ファインダー内は ) が点滅して知らせます。

- * 露出補正中は、表示パネルとファインダー内にバググラフと  が表示されます。

- * ハイパーマニュアルおよび250(1/250秒)のときのバググラフの表示は、露出計が働いている間は露出のオーバー・アンダーを示す表示がされますが、露出計がOFFになると露出補正値の表示になります。

露出計が働いているときに、バググラフの黒丸を中心に合わせれば、補正量に応じた撮影ができます。

- * 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。
- * 電源スイッチがユーザーポジション **[USER]** の場合は、露出補正は働きません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能を行なうと露出補正は可能になります。(75ページ参照)

応用的な使い方